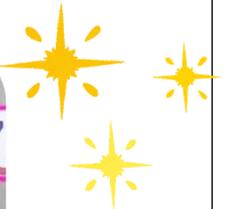




低学年お話発表会 IN 第2アリアンサ鳥取村

昨年に引き続き、第1・2・3アリアンサ校とミランドポリス高岡校による「低学年お話発表会」が開かれました。第3アリアンサからは、7名の生徒が参加し、ひらがなクイズと「金の斧銀の斧」の劇を発表しました。昨年は、手遊び歌だけで、練習時間もあまりとりませんでした。今年は1ヶ月の時間をかけて、発表の練習や小道具の準備も行いました。始めは、劇に乗り気ではなかった子供たちも、少しずつ練習に慣れ、セリフを覚えられるようになったり、大きな声が出せるようになったりと、練習の中で日本語も演技力も成長していったように思います。本番はとても緊張していて、セリフも演技もガチガチでしたが、去年とは比べようがないくらい成長した姿に感動しました！！



発表会の終了後、子供たちに感想を聞くと、「恥ずかしかった」や「全然だめだった」というような答えでした。第3アリアンサの劇は**大トリ**だったので、子供は、かなりプレッシャーを感じていたようです。発表会後の昼食では、緊張から解き放たれたのか、みんな笑顔で楽しそうに食べていました。今年のこの経験を生かして、来年もがんばってほしいです！！





各校の発表は、パワーポイントを使い、好きなものを発表したり、劇や手品をしたりと工夫を凝らしたものはばかりでした。そして、このお話発表会の一番すごいところは、日本語をしっかりと暗記しているところです。小さい子供たちも一生懸命に言葉を覚え、緊張しながらも話していました。日常生活ではポルトガル語を使用しており、日本語を使う機会は日本語学校の授業のときくらいしかありませんが、それでも発表のために、家でも頑張っていたことは、本当にすごいことです！これからも、日本語の勉強をがんばってもらいたいです！！



発表の中では、自分が好きな日本の食べ物やアニメ、歌等の話もあり、子供たちの日本文化への親近感や強い憧れを感じました！！



編集後記



「ここでしかできないことがある」

日本語学校へ通う生徒たちは、確実に減少しています。このノロエステ第3地区（第1・2・3アリアンサ、ミランドポリス）での行事も、昔は倍以上の生徒が参加していたそうです。でも、それでも、日系社会のコミュニティが残り続けていること、日本語学校が存在し続けることに、日本人としての誇りを感じます。ここは、都心のサンパウロからは600km、日本からは20,000kmも離れたところですが、ここでしかできないことが本当にたくさんあります。2019年の合同行事は、これで終わりました。行事の度に思います。「ここでしかできないことがある」。子供たちにも、私にとっても、大切な経験です。

